

ホコバスマレ、県内に発見

三 木 順 一

ホコバスマレ (*V. Ikedaana* W.B. 又は *V. mandshurica* var. *Ikedaana*) は池田清次郎氏が櫻島山にて採集した標本を竹内亮氏が独自のスマレ学者Becker氏に送り、Becker氏が命名したもので、九州各地の山岳高原の草原に多く、従来普通のスマレと混同されていたものである。「種子植物資案」によれば産地は本(信州山地)九(中部高山)となつている。

筆者は1954.8.1. 笠形山頂上三角点附近に群生するホコバスマレを発見した。近畿地方では初めての記録と信ずる。其の翌年更に段が峯・大河内町(旧寺前村)太田の滝の上流にも発見した。段が峯は非常に豊富であり、太田の滝のはケナシホコバスマレである。いず

れも海拔800m以上の草原の終日日射を受ける所に自生している。更に調査すれば播但国境に広く分布するものと信ずる。

特徴はケスマレに似ているが、葉の長さは同じでも幅極めて狭く、著しく鉾形を呈し、且つ稍厚手である。果実もケスマレより短小である。ケスマレに比べ葉の数も少く普通2~3枚、花の数も少い。開花期はスマレ科の中では晩生の方で、4月末から5月中旬までである。

生育状況を御覧になりたい方は筆者の庭でいつでも御目にかかる事が出来るし、現地も詳しく御指示出来る。同定は檜山庫三先生に頂いた。謝意を表する。

昭和31年本部行事 夏期生物生理講習会報告

昭和31年8月8日より4日間、兵庫農大生物学教室で開催されました。講師には、

本会会長 理学博士 森農大教授
動物は 野草農大助教授
植物は 堀江農大助教授
其他助手 2人

宿舎は篠山中学校作法室に合宿し、食事は農大食堂を利用して万事好都合でした。

受講生は本会会員52名、会員外8名、計60名で個人指導も出来て実験を主とする講習会としては最適の人数でした。受講内容は、8月8日午前10時より受付、開講式に引継いで、森会長の、最近に於ける生物分類に就いてと題する講演がありました。

分類学に多年の御経験と専攻されている先生にして始めて出来る新しい考えであつて多大の感銘するところがありました。午後よりAB2班に分れて、直ちに実験に取りかかりました。日没近くに至るまで炎暑の4日間、真剣な講師先生の指導と真面目な受講生の勉強とで終始愉快に過し、時々には討論することもありました。

動物

- (1) ショウジョウバエの唾腺染色体の観察
ユスリカの唾腺染色体の観察
- (2) ゾウリムシに関する実験
培養法、形態観察、生体染色
趨性(走向性)に関する実験では
走地性、走化性、走熱性、走電性

- (3) メダカの色素細胞に対する電解質の作用

- (4) 動物染色体の水処理、おしつぶし法

- (5) ショウリヨウバツタの染色体の観察では

採集時期、固定液、分裂前期、中期、終期、後期、精原細胞の成長期、細糸期、接合期、太糸期、複糸期、移動期、第一精母細胞、第二精母細胞等

植物

- (1) 原形質流動

材料 トチカガミ、カナダモ、シヤジクモ

の流動速度の測定、麻醉剤の影響、光の影響、傷害の影響

- (2) 気泡計算による光合成速度の測定

材料 カナダモ

光源との距離

- (3) 葉緑素の抽出と吸収帯の測定

材料 茶

葉緑素の抽出と分離、葉緑素吸収帯の測定

- (4) 種子の呼吸による炭酸ガスの測定

材料 大豆、エンドウの種子

重土水(baryta water)にCO₂を通じると、その量に相等する炭酸バリウムが沈澱するから呼吸によつて排出されたCO₂を重土水に導き、炭酸バリウムの沈澱を作らせて、その際失われたBa(OH)₂の量よりCO₂の量を測定する。

(地元幹事 樋口 繁一)